

平成28年度 足利中央特別支援学校 学校評価結果

平成28年度努力点 評価基準 A:達成できた(80%以上) B:概ね達成できた(50～80%未満) C:あまり達成できていない(20～50%未満) D:達成できていない(20%未満)

重点目標	推進担当	達成目標（評価項目）	評価の観点	教職員自己評価	保護者アンケート	総合評価	考察	改善策	学校関係者評価の結果と改善策
1 児童生徒の自立・社会参加に向けたキャリア教育の充実を図る。 ○小学部からの一貫した段階的な指導を行うため、学部間の連携強化を図る。	キャリア教育推進委員会 進路指導部	・キャリア教育全体計画に基づき、各学段落階での段階的な指導内容を検討・周知する。	・各学部での具体的な指導内容や学部間の系統性について理解することができたか。	A:10% B:83%	A:65% B:31%	B	・推進委員会の発案の段階から、各学部での検討の段階に移行し、指導内容について学部内での共通理解が図られるような状況になってきた。既に行ってきた職業教育や進路に関する指導内容を、改めて全職員が意識できるようになった。	・今年度中に各学部での指導内容を整理し、全体計画の最終案を全職員に周知して意見をまとめる。次年度、全体計画の完成を遂げ全職員の共通理解を図り、学部間の系統性を意識した指導を行えるようにする。	
	キャリア教育推進委員会 特別活動部	・キャリア教育を意識して各学部の連携を図ることで、特別活動における各学段落階での段階的な指導内容を検討する。	・特別活動(運動会・みどり祭・児童生徒会・部活動)において、各学部の連携を図りながら、キャリア教育を意識した指導内容を検討・実施できたか。 ・次年度への計画に活かすことができたか。	A:17% B:79%		B	・特別活動におけるキャリア教育とは具体的にどのようなのか分かりにくいところがあったのではないか。また、個人、学部内では意識できたが、学部間での連携が今後の課題である。	・キャリア教育全体計画を生かして、特別活動におけるキャリア教育の指導内容を確認する。運動会やみどり祭の実施計画の中にキャリア教育を意識したねらい、文言を具体的に入れる。	
	キャリア教育推進委員会 学習指導部	・キャリア教育到達度チェック表を活用し、個別の指導計画に反映させる。	・キャリア教育到達度チェック表が、個別の指導計画に活かされたか。	A:17% B:79%	A:55% B:35%	B	・評価A、Bの合計が90%以上ということで、キャリア教育到達度チェック表を活用して個別の指導計画の作成をし、適切な学習指導が行われたと考えられる。	・キャリア教育全体計画の各学部の目標と具体目標の内容に基づき、来年度は到達度チェック表の段階内容の妥当性について検討して見直しを行う。	
2 防災体制の拡充や交通安全教育の充実を図る。 ○安全教育の視点に立ち、災害や交通事故から子供たちを守る体制を再点検し改善を図る。	健康指導部	・防災意識の向上を図るとともに、様々な状況を想定しながら防災訓練を実施し、災害に対する的確な判断や指示・行動ができるようにする。	・防災計画やマニュアル等に基づき、様々な状況をイメージしながら防災訓練を行うことができたか。また、課題を把握し、その解決に向けて積極的に取り組むことができたか。	A:55% B:45%	A:53% B:36%	A	・放送機器が使用できなくなった場合を想定した訓練を新たに実施し、反省と改善策について共通理解を図った。防災訓練を通して防災意識の向上は図れたが、的確な判断や指示という点ではまだ課題もある。	・年度当初に、職員全体でマニュアルの確認をする。 ・夏季休業中の防災安全に関する職員研修の内容を係で検討し、充実を図る。	
	学校安全対策委員会 健康指導部 児童生徒指導部	・校内組織の自らの役割を理解して引き渡し訓練を行う。また、課題を把握して解決策を検討する。	・引き渡し訓練における校内組織や自らの役割を理解して訓練ができたか。また、課題を把握し、その解決に向けて積極的に取り組むことができたか。	A:13% B:81%		B	・役割分担し引き渡し訓練を実施し、課題を把握することができた。 (訓練実施前の評価だったのでAが少ないと思われる。)	・委員会、係や学部等で改善策を検討しながら防災体制の見直しや拡充を図っていく。 ・年に3回ある防災訓練と同じ日に実施する等、実施方法の具体策を今年度中に決めて、年間行事予定に入れていく。	・全学部で実施して、実際の災害時のように混み合った状態を体験した方が良い。 →今年度は初めての実施だったので、教員の体制を確認すること、保護者に引き渡し方法を理解してもらうことを目的とした。来年度、今回の反省を生かして実施方法を工夫する。
	児童生徒指導部	・通学安全指導を進め児童生徒自らが危機回避のために適切に判断・行動できる能力を身に付けさせる。	・交通安全期間や校外学習等を通じて、立哨指導や各学部・各学年等での安全指導を児童生徒の実態に応じて進めることができたか。	A:39% B:60%	A:44% B:41%	B	・評価A、Bの合計がほぼ100%で、各学部での取組(交通安全教室や校外学習等)が理解されてきたようだ。しかし、高等部については接触事故などがある。	・立哨指導等は年間を通して実施する。また、自主通学・自力通学の状況に応じて適宜、指導期間を設ける(年度末など)。	・高等部の接触事故があったり、保護者のアンケートでCの評価があったりするので、立哨指導や交通安全指導を引き続き行ってほしい。また、教員が立哨指導をしていることを保護者にも知ってもらうと良い。 →立哨指導、交通安全指導の充実を図る。指導の様子について、学校だよりやホームページで知らせる。
3 地域と連携した学校づくりを推進する。 ○地域の教育資源を生かした学習活動を検討・実践し、内容豊かな授業を展開する。	学習指導部 交流・共同学習係 渉外部地域連携係	・地域連携計画について理解し、地域との連携を推進する。	・地域連携推進計画について理解し、教員一人一人が地域との連携について意識することができたか。 ・地域との連携事業を提案したり、地域住民を招いた行事・授業等を実施したりすることができたか。	A:23% B:72%	A:57% B:37%	B	・ふれあい学習課職員を招いて地域連携についての研修を行ったことにより、意識付けになり理解が進んだと考えられる。自分が担当している学年・校務分掌等で何ができるかを一人一人が考えることができるかが今後の課題である。 ・PTA夏祭りやふれあいコンサート、小学部持久走大会のボランティア等、学校行事に地域住民の参加や協力を呼びかけ、招くことができた。また、交流教育や音楽教室、体験学習等で地域の学校や人材を招いての授業を行うことができた。	・ワークショップ等を行いどんなことができるかを具体的に考えられるようにし、教員一人一人が、より自分のこととして考えられるようにする。 ・今年度中に、交流・共同学習係で行っていた地域関係機関との活動内容について地域連携係へ引き継ぎ(学校だよりの配布、北郷地区文化祭、大月自治会女性部とのもちつき大会)、地域交流が推進しやすい体制にする。	・北郷地区文化祭に協力したり、校外で喫茶サービスをしたり、活躍をしている。 →引き続き、地域での活動を充実させていく。
4 教職員一人一人が児童生徒の人権を尊重し、協調して教育に取り組む。 ○特別支援の免許取得率の向上と研修等を通して専門性の向上に努める。	教務部現職教育係	・教職員一人一人が専門性の向上に努めるよう、研修の周知と参加の促しをする。	・教職員全員が、何らかの研修(センターの研修、他の学校の研修、認定講習等)に参加し、知識を深めることができたか。	A:52% B:47%	A:68% B:24%	A	・夏期休業中などたくさんの教員が総教センター等の研修に参加することができた。評価もA、Bを合わせてほぼ100%であった。	・今後も回覧やSharePoint等で研修の情報を積極的に知らせる。	
	教務部現職教育係 地域支援部センター的係 渉外部生涯学習ボラ係・地域連携係	・特別支援教育について理解を深め、校内・校外への啓発と支援を推進する。	・特別支援教育について、様々な方法(見学会、HP、各種たより、研修等)で情報の発信や支援を行うことができたか。	A:44% B:55%	A:55% B:37%	B	・地域支援部だより等、各種たよりをHPに載せているが、内容によっては時間が経っているものがある。HPの内容や発信の回数・タイミングについて改善したい。	・学習指導や教材などの情報提供ができるよう、HPの内容を充実させるとともに、行事や研修が終わり次第、その様子を写真とともにHPにアップする。	
	学習指導部人権教育係	・児童生徒や教職員に対し、教職員一人一人が人権の様々な内容を意識し、人権を尊重した言葉遣いや態度で生活・指導を行う。	・人権を尊重した言葉遣い・態度、画像の取り扱い等を意識して指導や学校生活を送ることができたか。	A:32% B:64%	A:66% B:24%	B	・評価A、Bの合計が90%以上ということで、教職員一人一人が人権尊重を意識して職務に取り組むことができたと考える。	・今年度に引き続き、人権に関する各種の研修に係以外の教職員への参加を呼びかけ、また、校内での人権研修の内容について検討する。	・少数の人の言動で、学校全体が評価されてしまうことがある。 →仲間同士で注意していけるような雰囲気作りをする。